

ずいそう

凡人の人生最終計画

川合雄二



この2月に週2日で従事していた経済産業省施策「国際規格共同開発調査研究」の当協会担当分年度事業の特別研究員としての業務終了を最後に12年間お世話になった日本建設機械化協会を辞し、3月より標記の「人生最終計画」を開始させた。先ず、目には遠視の眼鏡、耳には補聴器、口には入れ歯、腰には万歩計と最新の技術を駆使して身体の弱点補強を行って計画の円滑遂行のためのハードウェア（肉身体制）を整備した。

計画にある主な項目を挙げると、

(1) 友達関係の復活

業務多忙のためご無沙汰して、年賀状だけの繋がりになってしまっていた学友、企業職場の先輩、仲間等の人間関係を小、中、高、大の同期会、クラス会、会社の同期会、職場のOB会等に積極的に参加して復活させ、社会的動物である人間としての任務を遂行する。まともに出ると月2回位になる。

(2) コントラクトブリッジへの復帰参加

商社マンであった父が毎土曜日の夕方になると客を家に招いてやっていた2人1組、4人でプレイするトランプゲームがあり、8時までという前提でその観戦を親から許され小学校4年生のとき覚えたものである。発祥は、欧州で貴族の交際の場での遊びとして始められたが、「ホイスト」、「オークション・ブリッジ」を経て「コントラクトブリッジ」となり、その中心も米国に移り、専門の学校まで設立され、夫婦ぐるみでの付き合いには欠かせないものとして普及している。日本でも日本コントラクトブリッジ連盟が国内での普及取纏め及び公式戦の実施等を行っていて、現在約20万人の会員を擁する。非会員を含めるとその愛好家は、約100万人以上と予想される。

企業に入社時に先輩に勧められ一時期、会員になったが、業務多忙で殆ど公式戦に参加できず脱会し、現在まで32年間のギャップ（空位期間）が生じてしまった。親から譲り受けたものでもあり、余生の第1の趣味として取組むつもりであるが、この間にゲームの慣行も大幅に変わったので、早期会員復帰をめざして連

盟発行の基本的教科書の勉強と、地区のボランティア活動での勉強会に参画を開始した。週3日は必要。

(3) 囲碁愛好会の維持

昨年8月に協会の一部のOB愛好家による「かやの木会」が月例で行われるようになったが、会員を増やし更なる充実を図る。

(4) ウォーキングによる体重及び体脂肪率の改善

現在の住いは、最寄の駅（横浜線の成瀬駅）より約7分南西に位置する住宅団地内にあるが、南に2kmに行けば境川（東京・神奈川県との県境）、北に2.5km行けば恩田川に出ることができ、いずれも遊歩道が整備されていてウォーキングには、格好の場所である。毎日2時間以上、万歩計で12,000歩以上歩く。

(5) 自論、自説の文書化

70年の過去の経験、知識、思想（ソフトウェア）も肉体の消滅とともに無に帰してしまう。

自分として後世に残したいと思うことを文書として残すことは、自己満足だけに終わるかもしれないが、日に1~2時間かけて蓄積する。併せて1~2時間かけて関連文書の読書を行う。

(6) 旅行

業務上海外には多く出掛けたが、日本国内にも今までに訪問したことのない県が多くあり、旅行好きの妻と時間をかけて資力、体力、気力のある限り訪問する（五街道めぐり、桜前線とともに北上し、紅葉前線とともに南下する日本縦断旅行等）。

(7) その他

地域活動の要請（防犯パトロール、学童登下校の見守り等）への対応、ゴルフの練習、家事の分担等、時間の許す範囲で行う。

いずれの項目も非常に一般的なものとはいえ、時間的には、勤務していた時よりむしろ多忙になることが予想され、残りの人生の短さが嘆かわしく思われるが、実績をみながら時間配分を調整する予定である。

“忙しくも楽しき哉人生”